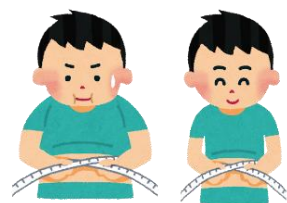


4. わ鐵を地域全体で支えていくためのヒント

「わ鐵の営業マン」と言われてもピンとこないかもしれませんが、次のような行動から始めてみてはいかがでしょうか。

わ鐵を「全国に誇れる宝」として、今後に残していくために、一人ひとりがわ鐵に率先して乗り、情報発信やおもてなしをお願いします。

営業マンとして、わ鐵をPRしよう！		
駅や車内で観光客と交流してみよう！  ○観光客の方にとっては、みなさんとのふれあいも旅の楽しみ！ ○わ鐵の良さをあらためて感じられたり、普段なかなか聞けない話が聞けるかも！？	手紙やはがき、SNSで魅力を発信してみよう！  ○わ鐵の魅力を内緒にしておくのはもったいない！ ○きれいな景観の写真を添えるのも素敵ですよ。 ○インスタ映えの写真で観光誘客につながるかも！？	列車が通ったら手を振ってみよう！  ○手を振るだけで簡単に温かみのあるおもてなしができます。 ○わ鐵や地域の印象アップにつながり、お互い笑顔になれます。
わ鐵に率先して乗り、車内を楽しく・にぎやかにしよう！		
駅の駐車場を使って、気軽にわ鐵に乗ろう！  ○わ鐵のほとんどの駅には無料で利用できる駐車場が整備されています。 ○長距離運転せずにはわ鐵とバスで日光に行けるんです！	高校に進学したらわ鐵で通学しよう！  ○友達とおしゃべりしながら楽しく通学できます！ ○車内で読書もでき、通学時間を有効に使えます。 ○学校から近い駅を調べてみよう！	天気の良い日などは通院や買い物もわ鐵で！  ○家族に送迎をお願いする心苦しさもなく、自分のペースでおでかけできます。 ○駅から路線バス・デマンドバスを使えば、事故の心配もありません。
加えて、健康にも効果大！		
◇自動車だけでなく、鉄道などの公共交通を使って移動するほうが運動量が多くなるため、消費カロリーが大きくなります。 ◇例えば、通勤時に、公共交通を利用している人は、自動車だけを利用している人に比べて約 2.5 倍のカロリーを消費しているとの試算があり、この差はスポーツジムでの運動約 40 分に相当します。 （出典：群馬県交通まちづくり戦略） ◇これが毎日のこととなれば、頑張ってジムに行かなくても、無意識のうちに運動し、健康になってしまいかもしれませぬ！ 		

5. アクションはもう始まっています

わ鐵を応援する150名を超える勤労者・高齢者・主婦・学生や会社などにより設立された「わたらせ渓谷鐵道市民協議会」があります。この団体は、活気ある住みやすい地域をつくるため、車両の清掃、各駅イルミネーション事業、花桃まつりなどのイベントを支援し、わ鐵を盛り上げています。

沿線地域には既に「わ鐵の営業マン」がたくさんいます。

みなさんもぜひこうした活動に参加されてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先

群馬県県土整備部交通政策課 TEL：027-226-2385

＜詳細については、群馬県ホームページをご覧ください。 →



>



群馬県交通まちづくり戦略

どうなる？わ鐵。
どうする！私たち。

わたらせ渓谷鐵道わたらせ渓谷線利用促進アクションプログラム
【行動喚起編（概要版）】



このアクションプログラムは、平成30年3月に策定した「群馬県交通まちづくり戦略」に基づき、わたらせ渓谷線（桐生駅～沢入駅）の利用状況や役割、将来的な課題をまとめたものです。



令和2年2月

群馬県
（関係市：桐生市・みどり市）

わたらせ渓谷線利用促進アクションプログラム【行動喚起編】

群馬県が調査したところ、本県はクルマに大きく依存しているため、鉄道の利用者がとても少ないこと、また、少子化の影響により、通学などの利用者はさらに減少する見込みであることがわかり、わたらせ渓谷線の存続が心配されます。

毎日の通学・通勤、ときどきの通院や買い物、そんな日常生活や、魅力ある桐生・みどり地域への観光誘客に、これからもわたらせ渓谷線があり続けるため、私たちができること――

1. わ鐵、このままで大丈夫！？

乗車人員は10年前から約29%減少

- 1日あたりの乗車人員は平成30年度で約900人。（桐生駅～沢入駅）。
- 乗車人員は10年前と比べて約29%減少と、地域の人口減少率を上回るペースとなっています。

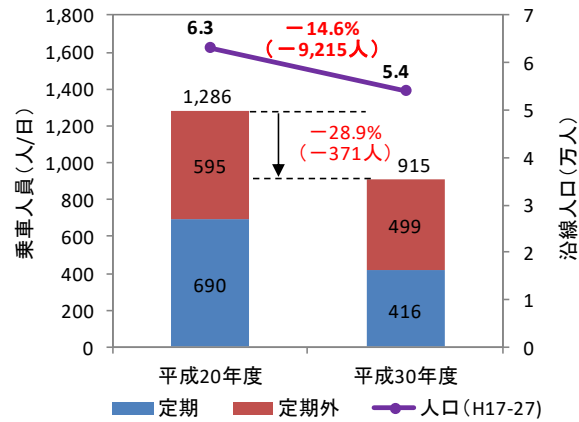


図1 乗車人員と沿線人口
(出典：わたらせ渓谷鐵道、国勢調査)

頼みの観光利用も減少

- 沿線は温泉や花などの観光資源があり、行楽シーズンには観光客でにぎわうものの、収入の大部分を占める定期外の乗車人員も10年前と比べて約17%減少しています。



<水沼駅（温泉センター）>



<小夜戸・大畑の花桃>



<草木ダムのカヌー>

わ鐵はあって当たり前なもの？

- 沿線（桐生市・みどり市）にお住まいの7割近くの方は、1年で1回も鉄道を利用していません。
- これまでの利用と変わらなければ、20年後には、少子化・人口減少の影響により、利用者は約37%の減少見込み。わたらせ渓谷線の存続が心配されます。

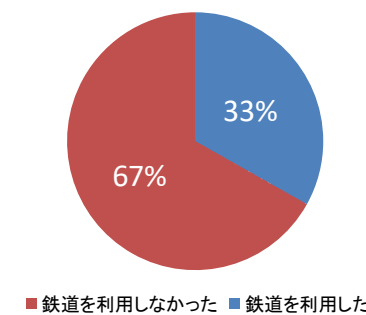


図2 ここ1年で外出時に鉄道を利用したかどうか
(出典：パーソントリップ調査)

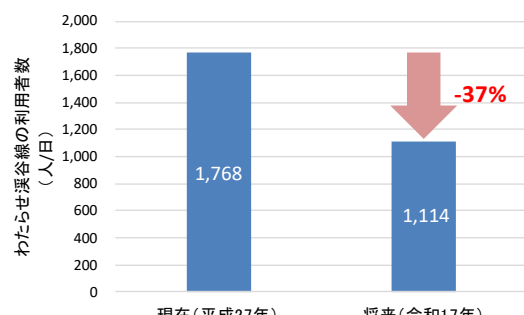


図3 利用者数の将来推計（出典：パーソントリップ調査）

2. わ鐵がなくなると地域はどうなる？

お子さんが学校に通えない！

- 令和3年に桐生高（桐生駅から徒歩5分）、桐生清桜高（運動公園駅から徒歩10分）が開校予定。どうやって通学しますか？
- 前橋など、地域外へ通いにくくなり、将来の学校の選択肢が限られてしまう可能性も・・・

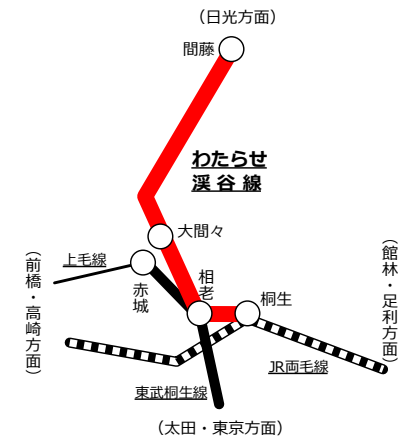


図4 わたらせ渓谷線近郊の路線略図

車を使えない方が生活できない！

- わ鐵には、免許証返納者や障がいのある方向けの幅広い運賃割引制度が用意されています。
- わ鐵利用者のうち、買い物や通院では5割以上の方が定期的に利用。生活になくてはならない交通手段です。
- 病気や怪我で通院するときにも運転できますか？

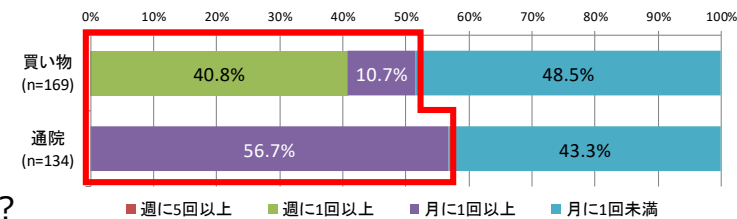


図5 目的別の利用頻度（出典：パーソントリップ調査）

地域の素晴らしさ・誇りが失われる？

- トロッコ列車や車窓からの渓谷美、沿線の花など、わ鐵が持つ観光資源がなくなってしまう・・・
- 年間500件以上もテレビや新聞等で取り上げられている、自慢の路線がなくなること、みなさんも地域への愛着や誇りを失いかねません。



<沿線の豊かな自然の中を走る車両の様子>

3. あらためて考えてみる、そして、みなさんに求められるアクション

わ鐵は地域全体で大切にしたい宝

- わ鐵は、地域のシンボルとして、事業者自ら情報発信や観光誘客を担うとともに、観光路線として得た利益をもとに、沿線のみなさんの「生活の足」を維持している、地域全体で大切にしたい「全国に誇れる宝」です。

一人ひとりが「わ鐵の営業マン」

- わ鐵の維持・存続のためには、日常生活の中での利用と、運輸収入の中心となる地域外からの観光利用の双方の維持・増加を図っていく必要があります。
- みなさん一人ひとりに、「わ鐵の営業マン」として、情報発信やおもてなしで誘客を応援する、そして、その過程で自分も率先して、わたらせ渓谷線を利用する意識と行動（アクション）が求められています。**